

会 報 <第408号>

次代を築くヒューマン・ネットワーク
一般社団法人兵庫県建築会



発行日 令和 元年10月 1日

<目 次>

- I 月例会開催報告 『新興国における日本企業の活動状況～ミャンマーの事例～』…2～6頁
講師:兵庫県立大学国際商経学部 学部長 教授 山口 隆英氏
 - 1 自己紹介と県立大学の沿革
 - 2 国際商経学部における教育活動の一環としての海外研修
 - 3 タイの話
 - 4 ミャンマーの投資環境

- II 見学レポート(1) 『ひょうごの景観ビューポイント150選』 …6、7、12頁
NO.17 尼崎市 長遠寺の山門

- III 会員寄稿 『明石海峡趣味の船釣り』 …8～9頁
(株)明和工務店 顧問 和田 好勝 (当会 理事)

- IV 見学レポート(2) ぶらりまち歩き 『西国街道と兵庫津』(6) 湊川神社 …10～12 頁

- V お知らせ 行事案内、事務局だより …13～14 頁
広報コーナー(住宅再建共済制度)



ひょうごの景観ビューポイント150選
神戸・阪神エリア NO.17 尼崎市



<ビューポイント>

長遠寺の山門前

<見えるもの>

寺町のまちなみ

<PRポイント>

寺町は、尼崎がかつて城下町であった面影を今に伝える歴史的、伝統的なまちなみ景観を呈しており、文化財の宝庫となっています。

※上のQRコードは150選案内

※関連記事を6、7、12頁に掲載

I 月例会報告

テーマ：『新興国における日本企業の活動状況～ミャンマーの事例～』

講師：兵庫県立大学国際商経学部 学部長 教授 山口 隆英氏

(開催日：令和元年9月12日 会場：西村屋和味旬彩)

◎ 開催挨拶（瀬戸本会長）



山口先生、今日はありがとうございます。

海外の異文化のお話を伺いますが、私事ですが6月と先週に中国の蘇州と上海へ行ってきました。スターバックスがあらゆるところにあるんですが、支払いはみんなスマホをかざすだけで、お金で支払うのは我々だけでした。

それと、電気自転車、電気オートバイばかりで、日本で見るようなバイクは1台も走っていません。みんな電気で走っているので、音はしないし、煙は出ない、ヘルメットはしなくていいし、16歳から乗れ、免許はいらない。

全国に広がっており、10億人が使用することになると言われています。空気のきれいなまちになっています。

一番びっくりしたのは、ガイドさんも自慢するんですが、超監視社会なんですね。あらゆるところにカメラが設置されており、みんなを監視している。なんで自慢するのかと言えば、先ず泥棒がいなくなった。車を窃盗されても直ぐにつかまる。悪い人がなくなった。人助けするとプラスポイントが付く。顔認証が直ぐに上がってくるんです。監視社会ではあるが幸せな社会を目指していると自慢する。

日本は、監視社会になっていないから、この間のあおり運転も泥棒も捕まらない。中国では、直ぐに捕まってしまう。

どっちが幸せかよく分かりませんが、文化を理解することはなかなか難しいことです。

今日は、先生よろしくお願ひします

◎ 講演（山口 隆英氏）



1 自己紹介と県立大学の沿革

今日は、「新興国における日本企業の活動状況」として、昨年の1月に行った調査の結果等についてお話をさせていただきます。

兵庫県立大学では国際商経学部長をしています。新しい学部で4月入学の学生がようやく慣れた頃に、また9月入学の受け入れで右往左往しているところです。

■ 県立大学の改革

この国際商経学部は、神戸商科大学時代の商経学部を兵庫県立大学への改編時に、経済学部と経営学部に分離していた。これを国際的大学への一層のシフトを目指し、再統合して「国際商経学部」へと改称した。授業の新形態として、経済と経営を4年間英語だけで行うこととしている。

■ 今後の大学の在り方

地域との共存を深めていくため、地域の企業から課題をいただき、その課題を学生と一緒に取り組んでもらうタイプの授業が増えている。

そこで企業と一緒にプロジェクトを組む中で、社長の考え方、経営の仕方に共感し、大企業の内定がある中で、仕事のやりがいを比較考慮し地元企業へ就職する学生が出てきている。

今後も、地元企業に、納税分を教育で返せるようになればと考えている。

また、その人材をグローバルに通用する人材に育てるため、外国人教師の採用と英語教育という流れをつくっている。

2 国際商経学部における教育活動の一環としての海外研修

グローバルで通用する人材育成のため、国際商経学部における教育の一環として、海外研修に取り組んでいる。

兵庫県のNPO法人が行う、貧困地の子ども達への食事補助を通じ、正しい道に子ども達を育てていこうとする活動現場に入り、学生も一緒にボランティア活動をしている。

年間、約80人の学生が、何らかの形で1～2週間海外に行き勉強をしている。

また、10名ぐらいは長期の海外、1年間の交換留学をしており、会長の挨拶にもあったが、県立大学との提携関係のある蘇州大学とも行っている。



海外研修でのボランティア活動の様子

3 タイのはなし

その海外研修でタイにおいて調査をした。

タイといえばバンコク周辺が中心で、既にあらゆる日本企業が入っている。郊外へ広がる道は、工場が溢れかえり日本企業が入り込む余地は少ない。そのため今回は、まだ余裕があると思われる北のエリア、チェンマイに行ってきた。

北のエリアは、ミャンマーの首都・ネーピードー（旧首都ラングーンから移転）に隣接し、おもしろい位置関係にある。

また、中国の昆明から南のバンコクへの「南北回廊」があり、ベトナムの中部のダナンから西へ横切りミャンマーまで道をつくる計画もされており、今後、「南北回廊」と「東西経済回廊」との交差点周辺の状況が変化して行くことが想定される。

このエリアは、タイの古い風習や生活が残り、国境付近でも興味あるエリアといえる。

■タイの投資環境

現地労働者の賃金は、現在1日1,100円程度。兵庫県の最低賃金は1時間当たり900円程度であり、日本の1時間分ぐらいでタイの人が雇用できる。

日本企業の投資も結構あり、新しいエリアになりつつある。

■チェンマイ周辺の状況

チェンマイ周辺は、交通網の整備はこれからであり、インフラや輸送面ではバンコク周辺に較べ劣っている。「京セラディスプレイ」という進出企業での話によると、バンコクまでは陸路しかなく時間を要し大変ということである。

ただ、近隣にチェンマイ大学があり、ここは県立大学とも提携を結んでいるが、優秀な地域の人材が集まっている。チェンマイはタイの京都といえる町で、そのようなところで、優秀な学生を採用できることは企業にとって大きなメリットとされていた。



灯の祭り、象、首長族、ニューハーフと国境付近でもあり、いろいろと面白いエリアである。

ここは農業のエリアで、多くの農産物を生産している。現地資本の「チェンマイ・フローズン・フード」は、枝豆を生産しファミリーマート等日本に出荷し成功した。タイではその食習慣はなかったが、日本の流通系が入り開拓したようだ。

このような契約農家をつくり大型の農業をするというエリアでもある。



※事務局作成

飛行場・エアラインが必要で輸送費が高く付くことから、高付加価値の工業製品や現地の農産品を生かしたものが適合すると考える。

チェンマイはミャンマーに近い位置にあるが、タイからミャンマーへ行くには、まだまだ問題が多く、タイからミャンマーのオペレーションは難しいとタイ人の経営者は言っている。

ただ、非常に落ち着いた都市環境で、いい大学もあり若者も沢山いるので、建築に適した人材を集めて教育をし、日本に連れてくるといったビジネスについては、非常に適した環境かと思う。

4. ミャンマーの投資環境

■基本情報

その後、ミャンマーの経済の中心地ヤンゴン市を訪問した。首都はネーピードーだが政府機関だけがあるといった感じである。

ヤンゴン、昔は「ラングーン」と言いイギリスがロンドンを模して開発した町で、昭和初期ぐらいまでは、日本も含めアジアでは一番進んだ都市であった。ここでは、鉄道の環状線が通り、本来は、都市機能が非常に充実していたはずだが、今は、列車の速度が時速30kmぐらいしか出ない。JRが入り高速化する事業を行っている。

水質も悪く、水を浄化するため福岡市水道局と協働して対策している。

ミャンマーは、日本の2倍ぐらいの面積に人口は約5,000万人程度で、種族は、ミャンマー族が70%を占める。

電力事情が悪く、1日1回は必ず停電がある。

最低賃金は、1日4,800チャットで、日本円換算で1日300円～350円ぐらいで雇用できる。

■政治的な問題

ミャンマーが注目される事由として、幾つかの政治的な問題が挙げられる。

一つは、中国が提唱する「一帯一路」である。

「一帯」とは、古来よりの文化、経済交流ルートと同じく「シルクロード経済ベルト」を指す。

「一路」とは、中国沿岸部から東南アジア、スリランカ、アラビア半島の沿岸部アフリカ東岸を結ぶ「21世紀海上シルクロード」を指す。

要は、昔のシルクロードに倣い経済発展をさせるため、中国が資金を提供し開発を行うもの。

ただし、注意すべきはスリランカの例があるように、新しい植民地政策の可能性があり、日本政府などは警戒しているところである。

ただ、この一帯一路が機能すると、経済規模も大きくなり、大きなビジネスチャンスが到来するため、非常に注目されている。

一帯一路とミャンマーの関係であるが、中国がアフリカなどからの鉱物資源をインド洋経由で運ぶためには、敵対的地域を通る必要がある。そのため、この海上ルートを自分のものと主張し、フィリピンの沖まで広げている。

インド洋を通過して、ダッカ湾に入ったあたりにミャンマーがあり、ここを中国まで運ぶ物資の入口ととらえ、中国にとって一帯一路を推進する上でミャンマーは非常に重要な戦略拠点である。

政治的な問題

■一帯一路

「一帯」とは、中国西部から中央アジアを経由してヨーロッパへと続く「シルクロード経済ベルト」を指す。また、「一路」とは中国沿岸部から東南アジア、スリランカ、アラビア半島の沿岸部、アフリカ東岸を結ぶ「21世紀海上シルクロード」を指す。

現在、マラッカ海峡を迂回しミャンマーから中国に石油を運ぶためのパイプラインを建設しており、中国船籍のタンカーが石油の積み下ろしをする非常に重要な拠点となっている。

このように、一帯一路の構想とミャンマーとの繋がりは深く、中国の投資が進むことがミャンマーにとっても国益に叶うものであるかもしれない。

ただ、中国の独占に任せるのではなく、日本としてもミャンマーとの古い関係もあり、ODAを活用して建築等の公共事業等に参画している。

二つ目に、国際社会では「ロヒンギャ」問題が大きく取り上げられている。

このロヒンギャ問題は、バングラデシュと接する西端のラカイン州で生じており、ヤンゴンではこの問題には興味がなく、余り知られていない。

政府・アウン・サン・スーチー氏としては軍部の排除方針との確執もあり、単順に擁護に回ることもできず、解決が難しい問題となっている。

このロヒンギャの問題が報道され、欧米系企業の投資が止まったり、様子見になっているが、日本企業の投資は継続していると聞いている。

ロヒンギャ問題の影響

- ヤンゴンではほとんど認識されていない。
- アウンサン・スーチー女史が取り組んでいるが、すぐには解決しない問題。
- 欧米系企業の投資が減少したが、日本企業はそれはそれという感じ。
- 軍政＝反ロヒンギャ→スーチー女史の対応を難しくしている

■インフラの整備

インフラ整備の面では、問題は停電があり、急激な都市化で下水の機能低下が起こっている。

インターネットは、ミャンマーの実情と関係なく、進出企業例えば住友商事が4Gの整備をするなど新しい機能のものが構築されている。

自動車の急増で交通渋滞が厳しいが、ヤンゴン市内はバイク禁止になっており、タイやベトナムで見られるバイクの氾濫はない。

■インフラの整備：産業面

ミャンマーの経営者との話によると、

- ・電力不足が深刻である。
- ・従業員の賃金上昇が大きくなっている。
- ・原材料・部品調達については、産業がないため難しい

ということである。

従業員の質は、まじめだが教育が不足している。それまでの農業従事から、「雨が降ったら休み」の習慣、時間どおり工場で働く習慣がなく、その面の教育が必要である。

特に、現地での中間管理職、幹部候補生の採用は非常に難しいようだ。

人の面で多くの難しい問題があると思われる。

■ミャンマー人の雇用

戦力になる人の雇用は、現時点では難しいが、日本企業や日本での労働希望する若者は非常に多く、日本語の習得速度が非常に速いとの話である。

大阪から進出したJ-SATという会社は、日本語教育などを熱心にされ、教育できた人を日本企業へ人材派遣している。

日本人講師も何人か入れ、日本語、面接の教育、指導をしており、日本企業で働きたい若者がたくさん集まっていた。

最低賃金は1日340円で、賃金上昇があるとしても、まだまだ安いところだ。ただ、国民性からどのようなことをさせるかが課題と言われていた。

■ミャンマー人の気質

ミャンマー人の気質の一つは、目上の人を敬うことであり、これは仏教の精神からきている。

次に怒るのが苦手。部下への指導を指示しても対応できないため、結局、日本人の社長が、直接叱ることになると言っていた。

三つ目に、忍耐力があり、そういう意味で、ミャンマー人は、いい人材も結構いる。

■ティラワ経済特区（SEZ）

ヤンゴンから離れた南のエリアにティワラ港があり、このエリアがインフラの整備された経済特区になっている。

このエリアに入るには橋を渡るが、地元の人は、中国の橋を渡るのは危険といい、日本がつくった橋は全く大丈夫だといっている。

ティラワ経済特別区

ヤンゴン市中心部から南に約20kmに位置する経済特区。2013年以降、日本政府が円借款により、電力、港湾、道路、上水、通信等の周辺インフラを整備。日本、ミャンマー両国の政府と民間企業による共同事業体が工業団地を開発。総開発面積2,400haのうち、500haが開発済。2017年12月現在、85社が契約済、37社が稼働中（うち日本企業は28社）。全体で5～6万人の雇用創出が期待されている。（外務省「ミャンマー共和国」より引用）

※事務局作成

また、ヤンゴン市街地はバイク規制等があるが、橋を渡ると規制外のため、経済特区ではバイクがすごく増えている。

この経済特区はヤンゴン市内から離れているものの、質の高い会社ばかりであり、平均賃金より高目の賃金設定がされ、給料は上昇傾向にある。

5 本日のまとめ

調査結果のまとめとして、タイは、どのエリアでもある程度計算のできるビジネス活動ができますが、ミャンマーは、現状では計算し難いところがあります。

ただ、ミャンマーのポテンシャルは、非常に大きいものがあると思っています。

ミャンマーは、中国にとってはパイプラインの出口であり、入口である非常に重要な戦略的拠点になりつつあります。中国と日本が、ミャンマーの主導権競争を一生懸命やっているところですが、中国のほうが幾つか先行していると思われます。

そして、都市化が進み、昭和初期のインフラの見直しが始まっており、建築関係の市場がこれから大きく動いてくると思っています。

ロヒンギャの問題は、ミャンマーの国内だけでは解決しない問題になりつつあり、国際的な評価からロヒンギャ問題を無視して、ビジネスだけの活動では批判がでると思われます。

このため、難民キャンプの教育施設の手当といったように、ロヒンギャ問題に対しコミットメントを見せながら、ヤンゴンでビジネスを展開する姿勢が必要と考えます。

ミャンマーは、これから建物の建設、道路や鉄道の再整備等の需要が今後ますます増加していくと予測できます。どのタイミングでどういうふうビジネスをやっていくか、あるいは、早目にミャンマー人を日本で教育していき、戦力化してお

くことは、将来に向け重要なステップになると思われる。

今日はどうもありがとうございました。

《本日の講演のまとめ》

タイとミャンマーの調査から

- 計算できるタイ 計算できないミャンマー
- ミャンマーのポテンシャルは大きい
- ミャンマーは中国にとっての戦略拠点
- インフラ投資がスタートする中で、建築関係の市場は活発に動くと予想される。
- ロヒンギャ問題のリスクをうまくとりつつ、ヤンゴンでビジネスをすることが重要。

◎ 謝 辞 (山本副会長)

今日はたいへんお忙しい中お越しいただき、貴重なお話を有難うございました。タイ、マレーシアの調査結果についてでしたが、私たちにとって未知のことで大変勉強になりました。

私事ですが、ローターリークラブで活動していますが、今年、カンボジアから五名ほど医療関係の病理技師さんを招いて、3週間ほど日本の研究機関において新しい知識を学んでもらいました。カンボジアの若いひとたちも熱心に学び活動してくれ、この人たちがこれから頑張っていくくれるだろうと思っています。

先生におかれましては、国際商経学部の学部長及び研究者としての立場でお忙しく大変なことと思いますが、今後ますますのご活躍をご祈念し、御礼の言葉に代えさせていただきます。

今日は本当に有難うございました。



【講演概要に使用した画像は山口講師の承認を得て使用しました。】

見学レポート (1)

Ⅱ ひょうごの景観ビューポイント 150選

前号(令和元年9月第407号)で兵庫県まちづくり局景観形成室から「県民やまちづくり団体等により守り育まれてきた、美しいまちなみや豊かな自然などを見ることができる絶好の場所を、ひょうごの景観ビューポイント150選」として選定したことの報告をいただきました。

また、今後は「ビューポイント」の認知度向上に取り組むとのことですので、当会でもその素晴らしい景観を、特に建築物やまちなみに着目してお届けしていきたいと思っております。

神戸・阪神エリア

NO.17 尼崎市：長遠寺の山門前

最初に取り上げるのは尼崎市寺町です。ここは、平成29年度の尼崎地域の見学研修で訪問予定のところ、時間の都合で残念ながら通過せざるを得なくなったもので、ここで改めて紹介をします。

○寺町都市美形成地域

寺町は阪神尼崎駅のすぐ南に位置し、約3.9haの地域に11ヶ寺が軒を連ね、尼崎市を代表する歴史的、伝統的なまちなみ景観を有している。

平成元年7月に寺町と隣接地域合わせて約7.7haが「尼崎市都市美形成条例」(昭和60年4月施行)による「寺町都市美形成地域」に指定された。現在、寺院の塀の外観の統一性や道路の石畳舗装により、寺町としての情緒を醸し出している。

○寺町の形成経緯

寺町が現在の形態となったのは、徳川家譜代大名の戸田氏鉄が、1617年尼崎城築城にあたり、城建設予定地内の寺院や、近隣の寺院等を集めて建設されたことによる。

寺院を一カ所に集中させる目的は、寺院を出城としての機能を持たせることと、寺院の管理をしやすくすることがある。当時、19ヶ寺の寺院が確認されている。

寺町ができて約370年、大都市の中心地に落ち着きのあるまちなみを残す全国的にもめずらしいもの。

(尼崎市の寺町都市美形成地域景観ガイドライン「誇りと愛着と活力のある美しいまちをめざして」1995年3月(増版)を参照しました。)

○寺町の景観

150選の景観は表紙のとおりですので、その他の寺町の景観写真を東側から順にお届けします。



- 上 寺町東入口にある全昌寺～本興寺
- 中上 広徳寺～甘露寺～法園寺～大覚寺
石畳のみち、外観の整然としたまちなみは、心地よく散策を楽しめる。
- 中下 大覚寺～150選の長遠寺方面
このまちなみには犬の散歩がよく似合う。
- 下 寺町西詰めの如来院から長遠寺方面の景観。背景の高層マンションが都心のてらまちであることをよく表している。

○尼崎城

阪神尼崎駅から高架沿いに東へ向かい、庄下川を渡ると直ぐに尼崎城址公園に至る。寺町の寺院群を西からの備えとし、この庄下川が自然の外堀の役割を担っている。ここに平成30年に完成し、本年3月から一般公開されている尼崎城の天守が威風堂々とそびえている。

この4層、地上5階建ての大天守は平成27年に家電販売店創業者から、城を建設のうえ寄贈申出があったもので、江戸中期の絵図を基に鉄筋コンクリート造で平成30年11月に再現された。

その後尼崎市により展示品の整備がされ、平成31年3月から一般公開されている。



- 上 尼崎城大天守（庄下川橋上より）
- 中下 城内展示の「尼崎城分間絵図」再現の基になった絵図
- 下 城跡公園南からの天守
クラシックな郵便ポストにしゃちほこが乗せられ、お城のポストを演出している。

※12頁に続く

Ⅲ 会員寄稿『明石海峡趣味の船釣り』

(株) 明和工務店 顧問 和田 好勝氏
(当会 理事)

私の趣味は船釣りです。

ホームグラウンドの明石海峡で1年中魚を追いかけております。会社経営の最前線から一歩身を引いたことにより、今まで以上に気楽に釣りを楽しむことができるようになりました。(後任の松本社長はじめ、経営陣の皆様よろしくお祈りします。)



マイボート

それでは、明石海峡の四季を通した釣りをご紹介します。船の大きさは23feet(約7メートル)90馬力で二見ボートパークに係留しております。ご存知のように船を操縦するには免許が必要です。私は2級船舶免許を持っており、釣りをするにはこれで十分です。

また、娘が意外にも3度の飯より釣りが好きになり、最初はまあたまには乗せたるワイぐらいのつもりでいたのが、気が付くと娘専属の「お抱え船頭」となっていました。(今は赤ん坊がいるので乗っていませんが、本人はメッチャ悔しそうで、タコ釣りに連れていけ！などとわめいています。)

明石海峡は幅が狭く潮流も早く、航行する大型船舶も非常に多いという、なかなか大変な海峡です。よって厳しい航行ルールがあり、それを守ることが必要です。こういったことを疎かにすると海上保安庁のお世話になることとなります。この方々は別にこちらからお願いしなくても、先方から慣れ慣れしく近づいてきて、船舶免許を見せろ、救命胴着は装着しているか、あれは積んでいるか等々しつこく質問されることとなります。

従ってルールを守って釣りをしたいものです。



Japan Coast Guard(海猿)

では早速、四季折々の釣りをご紹介します。

【冬】釣りものとしてはガシラぐらいしかありません。それにメバルが混じる程度です。そもそもそれ以前に海の上では季節風がストレートに吹き寒くてたまりません。この季節に釣りをするのはアホです(自分を含めて)。



ガシラ・メバル

しかし春が近付きイカナゴが大きくなってくると、にわかに活気付いてきます。

【春】メバルなどの活性が上がってくるのです。また乗っ込み(産卵のために浅場にやってくる)の桜ダイも活気付いてきます。その他花見カレイなども釣れ、スズキなども顔を見せます。



桜ダイ(娘婿)

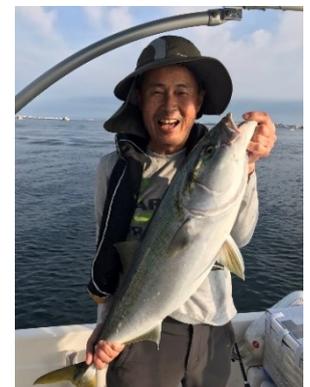


メバル4連(めったにない)

【夏】初夏にまずキスが近場で釣れます。同時にタコも上がるようになります。そしてこのシーズンには海峡中の船という船がタコを狙ってあふれかえります。しかしこのタコについては第1種共同漁業権というもの設定されており、エリア、漁獲期間等注意が必要です。



タコ(娘)



ブリ(90cm)

また、この季節にはイワシの群れが入って来て

これを釣ってそのまま大物(ブリ、アコウ等)を釣るといったこともできます。他にサワラ、イサキ等も上がります。サワラについては歯が鋭く鋭利で、かかっても切られることが多く、釣り人泣かせの魚です。



アコウ (50 cm)



サワラ

【秋】1年中で一番多くの種類の魚が釣れるベストシーズンです。カワハギ、アオリイカ、ハリイカ、マアジ、メジロ(ブリの小ぶりな物)、サワラ、タチウオ、紅葉ダイ等々多種多様な魚種が登場し、何を狙うか迷うぐらい釣っていて楽しい季節です。

なぜこのように多種多様な魚が釣れるのか、ここで明石海峡の特徴をあげてみます。

最狭部は3.6 km、最深部140 m、最大流速

7ノット。中でも最大の特徴は海中に大規模な断崖があり、そこにぶつかる湧昇流により満ち潮の際には常に三角波が発生します。そして酸素、養分が海域全体に行き渡るため、魚影が非常に濃いということです。そして豊富な餌のため、釣れた魚はどれも飛び切りおいしいです。



海峡の海底図(西明石の沖140 mから10 mへ駆け上がる崖がある。)

魚をおいしくいただくために釣った後の処理は神経締め等々しっかりとします。魚を3枚に下ろすまでは私が担当し、刺身他料理は家内が腕を振るいます。そして釣りの後は必ず反省会(宴?)となり、楽しく盛り上がります。今後も安全(特に天気の急変)に十分注意し、豊富な海の恵みに感謝しつつ楽しい釣りを続けていきたいと思ひます。



上左 カワハギ
下左 オニアジ
(マアジ52 cm)

上右 アオリイカ
下右 タチウオ



反省会



IV 見学レポート（2） ぶらりまち歩き 『西国街道と兵庫津』 （6）湊川神社

1 湊川神社由緒



湊川神社神門

ぶらりまち歩きの最後にお伝えするのは行程の中間にあった「湊川神社」。御祭神は誰もが知る「楠木正成公（1294～1336年）」。

創建は明治五年（1872年）5月24日で、明治元年（1868年）に「明治天皇が忠義を後世に伝えるため神社創建を命じられた。」（神社由緒参照）とされる。

その発端は、1864年に薩摩藩が皇室に忠義を尽くした楠公を祀る社創建を建白し、その後、尾張藩による創建の話が進むが、薩摩の進言により、明治天皇の裁下を得て政府による創建となった。京都案も取り沙汰されたが、維新の志士の聖地であった楠木正成一族の殉節地、墓所を含む土地に創建されたものである。（Wikipedia参照）

時代を経て、現在は「楠公さん」と市民に親しまれる湊川神社であるが、リポーターにあっても北区への移住後のこの25年の間、新年の初詣は欠かさず、孫三人の宮参り、七五三は全て楠公さんにお世話になり、あれこれと数十回はお参りするよき信奉者である。

しかし、この度のぶらまち案内役の歴史ソムリエ高松良和氏から「楠公さんのお墓にお参りしましょう」の提案と、最初に訪問した老舗菓子店「亀井堂」さんが、湊川神社にある「日本最古のオリーブの樹」（※1）に発想を得て新作のお菓子里にオリーブの実を取り入れたとのお話もあり、これだけ通いながらいずれも全く見たこともお参りしたこともなく、興味をもっての見学と相成った次第。

2 御墓所（史蹟：楠木正成墓碑）：「嗚呼忠臣楠子之墓」

神社の正門をくぐり境内に入ると直ぐ東側・右に進み、一段高く区画された墓所に案内された。（本当の入口は神門手前の右側に門がある。）神社の歴史に興味があれば別だが、25回初詣しようがここは全く気付かなかった。

それもそのはず、お正月は神門前から境内の両脇はずらりと屋台が埋め尽くし、真っすぐ本殿に向かって進むしかなく、墓所に近づくのは余ほどの意思をもってでなければ容易でない。お宮詣りに至っては、地下駐車場から待合室のある会館に直行するため、神門付近にはまず近寄らない。



楠木正成公 墓所入口（神門右手前）

ところで、この墓所であるが、次の3で記載のとおり、「湊川の戦い（1336年）」で正成公は一族と共にこの地で殉節されるが、元禄五年（1692年）水戸光圀公がその墓に「嗚呼忠臣楠子之墓」の碑を立て、墓所を建立された。

「この墓碑の建立により、多くの人々が正成公の遺徳を讃え、幕末勤皇思想の発展を助長して、維新への精神的指導力となり、吉田松陰、坂本龍馬、西郷隆盛、伊藤博文等々はこの墓前で至誠を誓い国事に奔走した。」（湊川神社由緒参照）とされる。

見学から半年を経ての報告となり、記憶違いがあってもいけないので、夏日が復活する9月4日に再訪した。楠木が覆い繁る墓所内は暑さを忘れさせるように空気が一変したように感じたが、気のせいではなかろう。

楠木正成公墓所 奥に“嗚呼忠臣”の碑



3 史蹟・楠木正成公戦没地



続いて、本殿にお参りした後、その左奥、境内の北西へと案内され、そこは石柵で囲まれた楠木の大きな木が鬱蒼と茂る森となっており、「史蹟・楠木正成公戦没地 指定区域・413坪9号」などと記された札が立てられている。

この中に入るには、事前の申し込みにより権禰宜による案内を受けることができる。

楠木正成、足利尊氏、新田義貞等の奮闘により鎌倉幕府を倒し、建武の親政(1333～1336年)を果たした後醍醐天皇であったが、功績のあった武士を登用せず、天皇、貴族中心の統治体制を講じたため尊氏の離反を招く。

天皇に従った正成は「湊川の戦い」で多勢に無勢の戦いを余儀なくされ、一族と共に「七生滅賊(しちしょうめつぞく)」を誓い殉節するが、その場所が柵内の奥の森に保全されている。

ここもまた初詣では、本殿にお参りしてお札や鐺矢をいただくと、新年を祝うためそそくさと自宅へと帰るのが常となっており、すぐそこに静けさに満ちた厳かなエリアがあることは全く知る由もない。石柵で囲まれた区域には、伊藤博文公等の名前が刻まれた立派な石や銅製の灯籠がズラリと立ち並び、正成一族への弔意とともに偉勲を讃えている。

墓所にしろ戦没地にしろ、神社建立の謂れを示す重要遺跡であるにも関わらず、湊川神社に参詣して25年、初めてそのことを知る無知さ加減には我ながら恐れ入っている。

4 日本最古のオリーブの樹

そして日本最古のオリーブの樹をご紹介しますと、この樹は、境内に入って直ぐ左側にあるが、同様にお正月は屋台で遮蔽され、気づきようがない場所にある。

日本のオリーブの歴史は、明治の殖産興業政策により、明治6年ウィーン万博の折、日本に初めて持ち帰り、兵庫県勸業場「神戸植物試験場」(現

在の県公館付近)に、次いで明治11年パリ万博で三田育種場神戸支園(現在の北野ホテル付近。後の「神戸阿利^{オリーブ}襪園」)に植え付けされた。明治末期に両園が閉園された際、いずれかの樹が湊川神社に移植された。従って、樹齢は百数十年になるものと推察される。

(紹介の掲示板参照)

また、2019年3月16日の神戸新聞NEXTには、「日本最古のオリーブ、枯死の恐れから復活 神戸・湊川神社」の見出しで、16年11月に樹木医が異変に気づき「天敵のオリーブアナアキゾウムシ」を駆除し、樹勢が回復したと掲載されており、今後とも大切に保存されていくものと思われる。

※1 このオリーブの樹は、会報第398号(平成30年12月)神戸秘話シリーズ第17回に『神戸とオリーブと小妖精と父 久坂葉子と父川崎芳熊』において紹介されている。
<会報第398号>

http://www.kenchikukai.or.jp/infomation/img/ka_iho398.pdf

5 おわりに

最後に、楠木正成公が活躍した鎌倉後期から室町初期に係る年代、天皇を参考に記しておきます。

長期に亘り、お付き合いをいただきました「西国街道と兵庫津」、見て歩きでその沿道、地域の歴史的舞台をご紹介します。ありがとうございました。

兵庫津一帯は、大輪田の泊の開設以来1300年余に及び海路、陸路の要衝としてその地位が形成されてきたもので、その歴史のほんの一端のご紹介に過ぎません。

県政150年に因み、是非皆さんにも直に史跡などをご覧いただき、兵庫津の歴史的意義を検証していただければと思います。永らくのご愛読誠にありがとうございました。

末筆になりますが、ぶらりまち歩きの初回りレポート以来、主筆をいただき、愉しく、読みやすくお伝えいただいた岡工務店専務取締役 岡 澄彦氏には厚く感謝申し上げますとともに、岡さんからのこの度の感想をお伝えします。

『春の訪れを感じ始めた時期に有志だけによって行われた歩きイベントの紀行文が半年分もの尺を取って引っ張れたのは正直驚きです。場所的に身近でありすぎて見落とししていた高田屋嘉兵衛ワ



ールドへいざなっていただけた谷専務理事に感謝いたします。今回は西国街道のごく一部を歩いて検証してみましたが、あの続き(JR 兵庫駅から西)がかつての山陽電鉄の軌道跡(神戸高速鉄道統合後は廃線区間)であり、丁度西国街道をなぞるように山電が兵庫～長田～西代駅の併用軌道区間を走っていたことを思えば、興味深いものがありますね。見慣れた風景の中のぶらり街歩きによる再発見もまたいいものです。』

この度の案内役 歴史ソムリエ 高松良和氏からは次のようなコメントがありました。
『三宮神社から元町商店街を通過して、湊川神社、西出町まで一緒に歩かせて頂き、歩きながらも初めて聞いた話に出会ったり、新鮮なまち歩きになりました。途中のD51のところでは、岡専務が鉄道マニアで蒸気機関車について教えていただきました。神戸・兵庫は知らないことのいっぱいある興味深いまちです。』

◎楠木正成公(1294年～1336年)時代背景
(ブルー文字は正成公の生存の時代を表す)

時代名と期間

鎌倉時代	1185年～1333年
建武の親政	1333年～1336年
室町時代	1336年～1573年
南北朝時代	1336年～1392年
戦国時代	1467年～1590年

南北朝の天皇

(南朝)	(北朝)
95 花園 (1308～1318)	
96 後醍醐 (1318～1331)	
後醍醐 (1336～1339)	光厳 (1331～1333)
97 後村上 (1339～1368)	光明 (1336～1348)
98 長慶 (1368～1383)	崇光 (1348～1351)
99 後亀山 (1383～1392)	後光厳 (1352～1371)
	後円融 (1371～1382)
	後小松 (1382～1392)
100 後小松 (1392～1412)	

※天皇名の前の数字は代数、()内は在位期間

本殿の背後の森が殉節地保護林



II ひょうごの景観ビューポイント
150選

神戸・阪神エリア NO.17 尼崎市：
長遠寺の山門前

(7頁からの続き)

○ 寺町周辺のレンガ建造物3態



上 尼崎レンガ倉庫(阪神電車旧尼崎発電所)
『まちかどチャミング賞』

(尼崎市・2012年2月)

場所：尼崎城跡公園北

中 『景観形成重要建造物』(尼信記念館)

兵庫県第6次指定(平成22年度)

「この建築物は地域の景観上重要な財産です。」の表示がされている。

場所：本興寺南、尼信本店横

下 『煉瓦塀』

場所：弥勒寺～長遠寺の裏通り

訪問は残暑の9月13日でしたが、午前のお蔭で散策には助かりました。阪神尼崎駅周辺とは思えない(失礼)閑静なまちなみで、約2時間ゆっくりと、お城とお寺巡りが愉しめました。

コース：阪神尼崎駅～尼崎城～寺町一周～阪神尼崎駅

V お知らせ

◎正会員新規入会のご案内 (敬称略)

法人名 株式会社ピアレックス・テクノロジーズ

代表者 代表取締役 三輪 周美

所在地 大阪府泉大津市茶南町4-14

主要業務 機能性コーティング材の開発、製造、
施工等

加入日 令和元年10月1日

これより事業運営へのご協力よろしくお願
いします。

◎行事予定

1 10月月例会 (第478回)

日程 令和元年10月10日(木) 12時～

テーマ 『マレーシアのインフラ整備事情
～サバ州での JICA シニアボランティア
体験を通じて～』

講師 井上 俊廣氏

元兵庫県県土整備部長

元兵庫県まちづくり技術センター理事長

講演概要 JICA シニアボランティアとして、サバ
州の州都コタキナバル市で過ごした2年間を通
じての経験、見聞を基に、マレーシアの交通イ
ンフラや人々との交流等について紹介いただき
ます。(写真は赴任先のコタキナバル市街地)



2 見学研修会 (兼第479回月例会)

日程 令和元年11月14日(木)

見学先 奈良方面：紅葉の名所と江戸期風情のま
ち並み散策

1 桜井市多武峰 談山神社

大化の改新の舞台と紅葉の名所

2 明日香村 高松塚壁画館

3 橿原市今井町 重要伝統的建造物群保存地区

江戸時代にタイムスリップする街並み
散策 (案内付き)



談山神社：紅葉と十三重の塔



橿原市今井町のまちなみ

【写真提供：一般社団法人橿原市観光協会】

ご案内中です。ご参加よろしくお願
いします。

◎事務局だより

○建設会館の東側隣接地、西神中央駅南側の空地
の整備が動き始めました。既に、西区役所の移転
準備も始まっており、西神ニュータウンの仕上
げの段階に入ってきました。

私が西神NTに関わったのは45年ほど前。ま
だ荒涼とした造成中の丘陵地で、住宅金融公庫の
宅造資金融資の検査で来ていました。初期の入居
段階では地下鉄が未開通で、通勤は名谷までバス
で出るといった苦労がありました。

そして、ニュータウンの仕上げの西神中央文
化・芸術ホール等整備事業がスケジュールに乗っ
てきました。7月、9月でお伝えした三宮駅前整
備事業、市役所整備事業、いずれも文化ホールが
絡んでおり、5年、10年先のまちの顔、景色がど
のようになっているか楽しみです。

折を見て県庁周辺整備事業のレポートもお願い
したいと思っています。

○発生当時は、規模はそれほどでなく、列島に近
づくとき大きく東へそれる、といった予測の台風1
5号も、急成長しての上陸で大変な被害が出まし
た。殊に停電の長期化が家庭生活、企業活動に大
きく支障がでましたが、首都直下型がやってきて
どうなるのでしょうか。想定外を更に点検する必
要があるようです。

○9月の末、播州路を走ると稲穂が収穫間近の色
合いとなり、その畔を真っ赤な曼珠沙華がびっし
りと埋めている強烈なコントラストの景観がそこ
かしこに広がっていました。そして、仕事帰りの
すっかり暗くなったバス停に立つと、金木犀の甘
い香りにふと気が付き、残暑の中にも秋の訪れが
感じられました。台風の無事通過を願います。

木犀の香り漂う闇深し (前川 嘉風)

事務局 : 谷 純夫、石井滝実子

電話 : 078-996-2851

FAX : 078-996-2852

Email : archit-k@axel.ocn.ne.jp

広報コーナー：住宅再建共済制度

『兵庫県住宅再建共済制度』の詳細は次からご覧いただけます。
 兵庫県住宅再建共済基金HP → <http://phoenix.jutakusaiken.jp/>

安心をカタチに

兵庫県住宅再建共済制度 フェニックス共済



自然災害から守りたい「住まい」と「暮らし」

今後、もしも！！

南海トラフ地震が発生したら

- ▶ 30年以内の発生確率 最大80%!
- ▶ 県内の被害想定 全半壊 21.5万棟!

活断層地震が発生したら

- ▶ 油断できない「山崎断層帯」「上町断層帯」など

大型台風が直撃したら

豪雨による災害が発生したら

自然災害で被災した住まいの再建に備えて 兵庫県が実施する共助のしくみ！

県内に住宅(戸建て・マンションなど)をお持ちの方に		県内の住宅(借家含む)にお住まいの方に
住宅再建共済 年額5,000円で 再建、補修時等に 最大600万円 給付! ※半壊(損害割合 20%)以上	一部損壊特約 年額500円で 補修時等に 25万円 給付! ※損害割合10%以上20%未満	家財再建共済 単独加入 年額1,500円で 住宅とセット加入の場合 年額1,000円で 購入・修復時に 最大 50万円 給付! ※床上浸水・半壊以上

※ 住宅の被害認定(損害割合)は、住宅の所在する市町が発行する「リ災証明書」によります。

- 地震・津波・豪雨・台風・地すべり・竜巻など、あらゆる自然災害による被害が対象です。
- 住宅の築年数や規模、構造等と関係なく、定額負担で定額給付です。
- 地震保険や他の共済に加入していても加入でき、給付が受けられます。

お問い合わせ

公益財団法人 兵庫県住宅再建共済基金

コールセンター **078-362-9400**(平日9:00~17:00)
 FAX: 078-362-4082

E-mail jutakukyosai@pref.hyogo.lg.jp

フェニックス共済 検索 加入申込書はダウンロードできます



「加入申込書付きパンフレット」は、県庁・県民局・県民センター・市役所・町役場・郵便局(簡易郵便局除く)にあります。

クレジットカードでのお支払いの方は、インターネットからのご加入が便利です！